

NPO 法人住まいのホームドクター／設計者の会
460-0006 名古屋市中区葵 1-27-32 カイフビル 7階

HD ニュース

No.34
2016.1.15

今後の予定／於：事務局会議室

- 1月19日(火)18:00～ マンション大規模修繕研究会
- 1月19日(火)19:00～ 研修会
- 1月21日(木)18:30～ 木造技術研究会
- 2月16日(火)18:00～ 相談委員会
- 2月16日(火)19:00～ 研修会
- 2月18日(木)18:30～ 木造技術研究会

新年のご挨拶

理事長 滝井幹夫

会員、賛助会員、ニュースをご覧頂いている全ての皆さんに対し、旧年中に頂いた様々な御支援に対する感謝と、新年の御挨拶を申しあげる次第です。

昨年を振り返ってみますと、建築界に関係の深い事件が相次ぎました。一つは「新国立競技場」コンペに関して、応募要項の応募者資格、建物規模や建築費、コンペ審査の公平性などを巡って、国民世論の大多数が反対でした。その結果、一旦「白紙撤回」され、応募要項、建物規模や建築費の見直しがされ、改めてコンペが実施され、当選案が決定しました。

この間、「白紙撤回」を招いた全容が不明で、責任を取った者も基本的に無く、曖昧なまま推移しています。見直しのコンペ要項の応募建築家はゼネコンと組むことや、コンペ期間が短いことなどから、応募者が2者にとどまり、見直されたとはいえ、工事費は当初の1300億円を超え、過去の各競技場建築費を大幅に超えています。建物高さも地区計画を大幅に超えたものです。

私たちは設計にあたり、各法令、告示、条例、規則などの遵守が求められ、それらが「安全・安心・快適・・・」な都市景観・家造りに必要だと思って(思わされて)きました。国家的事業とは言え、地区計画の高さや街の景観を一気に大幅に変更されることは、法令などへの信頼感や、永年にわたって造られた街

の景観を損なうことになるとの懸念は的外れでしょうか。

二つ目は、マンションくい打ちデータ偽装などの事件です。未だに、全容が明らかにされないまま、国土交通省は早々と元請の三井住友建設に業務改善命令と同省発注工事の指名停止1か月、一次下請けの日立ハイテクノロジーズと二次下請けの旭化成建材に15日間の営業停止と業務改善命令処分が下されました。

処分の軽重は簡単に判断できませんが、責任の最も重い元請の処分が軽いように思えてならないこと。設計監理者としての責任が今後問われるのか、否かを注視していく必要を感じます。そして、何よりも国民の不安を解消する為に、全容を一日も早く明らかにすることを求めたいと思います。

目を建築外に転ずると、東北大震災・原発事故から5年を前に、国民の過半数の反対にも関わらず原発の再稼働、約8割が今採決をすべきでないとの世論に反し、安保関連法が採決されるなど、国論が大きく割れています。

一人ひとりが、自分で考え、自分で声を上げ、行動する時代を迎えているのではないのでしょうか。

本年をそんな年にしたいものです。

杭データ流用問題について

相談委員会委員長 瀬瀬 誠

◇三井住友建設の設計・施工により、三井不動産レジデンシャルが販売した横浜市の方譲マンション「パークシティLaLa横浜」で、杭施工会社の旭化成建材によって杭打ち時の電流計のデータが流用されていて、且つ、建物が傾いているとされる件は、建築界に大きな衝撃が走りました。横浜市や親会社の旭化成によると、全4棟で使われた473本の内、

3棟の38本でデータの取得に失敗して他の杭のデータを流用した模様です。傾いた1棟については、10本の杭にデータの流用が認められ、その内8本で強固な地盤に達していないなどの施工不良が判明しました。また、セメントミルクの使用量にも偽装が有りました。三井不動産レジデンシャルは、傾いている1棟だけではなく、マンションを構成する他

の3棟も含めた全4棟（計705戸）の建て替えを前提に住民と協議すると発表しました。

◇国交省は、旭化成建材に対して調査を求め、平成27年11月25日に旭化成建材から国土交通省に対して調査結果等の報告がありました。この報告によると、旭化成建材が施工した3,040件及び追加12件の調査が終了し、そのうち360件について流用等が判明しました。国土交通省は、旭化成建材に対して直ちに、施工データの流用等が明らかになった建築物について、安全性の確認と発注者に対する連絡を指示しました。併せて、関係地方公共団体に対して、対象建築物の安全性を確認するよう要請しました。

◇そもそも、杭は建物を支えるという最も重要な役割を担っています。杭に問題があれば、建物の存在にまで影響を及ぼすことになることは、この業界にいる何人でも分かっていることです。ですから、文字通り建物の基礎となる部分で虚偽行為をおこなうなどということは凡そ信じられませんでした。我々も、工事監理において、試験杭の打設には立ち会って電流計を確認することはあるのですが、全ての杭打ちに立ち会うことはありません。私に限らず、杭

というような重要な部位で虚偽行為がおこなわれるということなど、全く疑うことすらなかったのではないかと思います。しかし、360棟もの建物で流用等が判明したということは、もはや常態化していたことを示します。事実として、他の複数の杭施工会社でも流用等をおこなっていたと公表しました。

◇さて、実は、私が設計した建物でも旭化成建材による施工によるものが2棟ありました。さっそく、施工報告書を引っ張り出して、1本ずつ電流計のデータを確認しました。幸いにもデータの流用は視られませんでした。併せて、現場（福島県）まで赴き、沈下等が発生していないか確認しましたが、そのような現象は視られませんでした。ホッとすると共に、建築主に対して、その旨を文書で報告したところで

◇このような問題が明らかになると、これからの対応が問題になります。国交省は何も発表していませんが、施工管理又は工事監理の方法に何らかの業務が追加されることになるかもしれません。注意深く様子を見ていこうと考えています。

4月17・18日研修旅行(信州)参加募集

木造技術研究会委員長 寺島一朗

今年も恒例の研修旅行を計画しました。行程は、4月17日（日）AM8:00 金山駅ダイエー前出発、4月18日（月）PM6:00 金山解散予定です。

① 小笠原資料館（旧小笠原書院） 長野県飯田市
平成11年完成。旧小笠原書院は重要文化財です。

② 海野宿 長野県東御市

北国街道の海野宿は、江戸時代の宿場の建物と、明治以降の養蚕造りの建物がよく調和する町並みです。

③ デッサン館・無言館・槐多庵 長野県上田市
デッサン館は、立原道造・関根正二など若くして病死した画家のデッサンを中心に展示しています。無言館は、戦没画学生たちの遺作となった絵画・作品・

絵の道具・手紙などを専門に収蔵展示しています。

④ 鹿教湯(かけゆ)温泉での宿泊を予定しています。

⑤ 松本城 長野県松本市

⑥ 中町 長野県松本市

土蔵造りの家が今尚多く残り、蔵のある街をコンセプトに独特の街並みを形成しています。

⑦ 旧開智学校 長野県松本市

現在保存されている校舎は、明治9年4月に建てられました。国の重要文化財です。

20名参加で25,000円/1名。20名以上であればより安くなります。会員外の参加も可能です。詳細は、メーリングリストで配信します。

■相談委員会 12/15 18:00~19:00

無料電話相談の相談内容報告、質疑。電話相談当番。
HP「Q&A」改定について。

■木造技術研究会 11/19 18:30~20:30

『検査員が明かす建築確認の誤解 申請が「すんなり通る」100のツボ』をテキスト読み合わせ。